

# 授業計画

科目名	体育実技				担当	石田 和也		
実務経験	保健体育教員として指導した経験を活かして学生に実技指導を行う					授業形態	実技	
単位数	1				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
		15			教養・ <b>必修</b> ・選択必修・幼免			
<b>【授業の目的・ねらい】</b>								
1. スポーツ実践(球技)を通し、健康や体力の向上に努めるとともに豊かなライフワークを身につけさせる。								
2. 安全に留意しながら、ルールを遵守し、責任感や協調性、幼児体育の実践力を身につけさせる。								
<b>【授業全体の内容と概要】</b>								
1. 球技種目のゲームを中心とした授業展開の実施。								
2. 各種目のルールや審判法の理解と実践。								
3. 各種目の攻防の展開の理解と実践。								
4. 体ほぐしや体力づくりの準備運動。(できるだけ短時間で毎回)								
<b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b>								
1. 学生の運動経験、能力、興味、関心等を踏まえ、卒業後も好きなスポーツを継続的にできるようにする。								
2. 健康や体力の維持向上を目指し、自らその実践に努め、地域等の実社会で活かせるようにする。								
3. 球技を中心に授業を行い、安全に留意し、ルールを遵守しフェアプレイの精神を身につけさせる。								
4. 体ほぐしなど幼児体育に関する内容を導入し、実践の場での応用力を身につけさせる。								
<b>授業計画</b>								
第1回	ソフトバレーボールに慣れパス、トス、アタックができるように学習する。							
第2回	ソフトバレーボールの状況に応じたボール操作や安定した連係や動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開する方法を学ぶ。							
第3回	今まで学習して身につけた技術や戦術を使って楽しくソフトバレーボールのゲームができるようにするとともにルールや審判法を実践で生かす。							
第4回	今まで学習して身につけた技術や戦術を使って楽しくソフトバレーボールのゲームができるようにするとともにルールや審判法を実践で生かす。							
第5回	バドミントンのラケットの握り方、シャトルに慣れ、自分の思い通りにシャトルが打てるようにする。							
第6回	バドミントンの役割に応じたシャトルの操作や安定したラケット操作によって攻防を展開する方法を学ぶ。							
第7回	今まで学習して身につけた技術や戦術を使って楽しくバドミントンのゲームができるようにするとともにルールや審判法を実践で生かす。							
第8回	今まで学習して身につけた技術や戦術を使って楽しくバドミントンのゲームができるようにするとともにルールや審判法を実践で生かす。							
第9回	卓球のラケットの握り方、ピン球に慣れ、自分の思い通りにピン球が打てるようにする。							
第10回	卓球の役割に応じたピン球の操作や安定したラケット操作によって攻防を展開する方法を学ぶ。							
第11回	今まで学習して身につけた技術や戦術を使って楽しく卓球のゲームができるようにするとともにルールや審判法を実践で生かす。							
第12回	今まで学習して身につけた技術や戦術を使って楽しく卓球のゲームができるようにするとともにルールや審判法を実践で生かす。							
第13回	バスケットボールの安定したボール操作と空間作りだし、連係した動きでゴール前の侵入などからの攻防を展開する技能を学ぶ。							
第14回	バスケットボールの状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動き、連係プレー、ルール、審判法について学ぶ。							
第15回	今まで学習して身につけた技術や戦術を使って楽しくバスケットボールのゲームができるようにするとともにルールや審判法を実践で生かす。							
テキスト	道和尚院	大学生の健康・スポーツ科学						
参考文献	大修館出版	アクティブスポーツ						
	チャイルド社	幼児の運動あそび						
	西東社	スポーツトレーニングの基礎理論						
成績評価の方法	授業態度 ・ 出席状況 ・ 提出物							

授業計画

科目名	国語(書写を含む)				担当	山岡 雄一郎	
実務経験	国語の教員として指導した経験を活かし学生に演習を行う					授業形態	講義・演習
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
		15			○教養・必修・選択必修・幼免		
<p>【授業の目的・ねらい】          国語に対する基礎的・基本的知識理解を確実にするとともに、国語教育及び言語生活について考える力を育てる。</p> <p>【授業全体の内容と概要】          日本語の特徴を表記、音声、語彙、文法などの面から理解を深めるとともに、今日の国語問題や言語環境について考える。また、硬筆を中心とした書写の実践も行う。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】          国語に対する基本的・基本的な知識を身につけるとともに、言語生活を広い視野から考えようとする態度を養う。</p>							
授業計画							
第1回	日本語の特色(1)						
第2回	日本語の特色(2)						
第3回	日本語の音声の特徴(1)						
第4回	日本語の音声の特徴(2)						
第5回	日本語の語彙について(1)						
第6回	日本語の語彙について(2)						
第7回	日本語の文字及び表記法について						
第8回	日本語の文法について(1)						
第9回	日本語の文法について(2)						
第10回	日本語の文法について(3)						
第11回	日本語の文法について(4)						
第12回	日本語の方言について						
第13回	日本語の敬語について						
第14回	国語をとりまく現代の言語環境について						
第15回	試験						
	出版社名	書籍名					
テキスト	萌文書林	保育者になるための国語表現					
参考文献	岩波新書	金田一春彦著『日本語 新版 上下』					
単位認定方法	授業態度・出席状況・試験						

## 授業計画

科目名	教育原理				担当	平野 美緒		
実務経験	臨床心理士、公認心理師としての専門性と現場経験を活かし、講義を行う。					授業形態	講義	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
		15			教養・ <b>必修</b> ・選択必修・幼免			
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>            教育に関する基本的知識を習得し、教育について、自分なりの見方や考え方を持てるようになることをねらいとする。</p> <p><b>【授業全体の内容と概要】</b>            教育の必要性や目的について学び、加えて子どもが育つ家庭、地域社会、学校という場における教育の意義と役割について理解し、教育について主体的に考える力を培う。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b>            1.教育の意義、目的及び子ども家庭福祉との関わりについて理解する。            2.教育の思想、歴史的変遷、制度について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する。            3.教育実践の様々な取り組みについて理解する。            4.生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。</p>								
<b>授業計画</b>								
第1回	教育の意義と目的							
第2回	乳幼児期の教育の特性							
第3回	教育と子ども家庭福祉の関連性							
第4回	人間形成と家庭・地域・社会等との関連性							
第5回	西欧の教育思想と歴史的変遷①							
第6回	西欧の教育思想と歴史的変遷②							
第7回	日本の教育思想と歴史的変遷							
第8回	子ども観と教育観							
第9回	教育の制度・法律							
第10回	諸外国の教育制度と実践							
第11回	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の特徴							
第12回	現代における教育的課題①							
第13回	現代における教育的課題②							
第14回	学び続ける教師となるために							
第15回	試験							
	出版社名				書籍名			
テキスト	中央法規				新基本保育シリーズ2 教育原理(2019)			
参考文献								
単位認定方法	出席状況、授業態度、提出物、試験							

授業計画

科目名	社会的養護 I				担当	持田 陽子		
実務経験	福祉および教育現場での実務経験を活かし講義演習を実施する					授業形態	講義	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
		15			教養・ <b>必修</b> ・選択必修・幼免			
【授業の目的・ねらい】								
<p>現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する          子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する          社会的養護の制度や実施体系について理解する          社会的養護の対象や形態、関係する専門職について理解する</p>								
【授業全体の内容と概要】								
子どもの最善の利益を保障する為に必要な知識について学ぶ								
【授業終了時の達成課題(到達目標)】								
社会的養護の現状と課題について理解する								
授業計画								
第1回	社会的養護の理念と概念							
第2回	社会的養護の基本原則							
第3回	社会的養護の歴史の変遷							
第4回	社会的養護の制度と法体系							
第5回	社会的養護における保育士等の倫理と責務							
第6回	社会的養護に関する社会的状況							
第7回	家庭養護と施設養護①							
第8回	家庭養護と施設養護②							
第9回	社会的養護の対象と支援のあり方①							
第10回	社会的養護の対象と支援のあり方②							
第11回	社会的養護に関わる専門職							
第12回	被措置児童等の虐待防止の現状と課題							
第13回	社会的養護と地域福祉の現状と課題							
第14回	まとめ							
第15回	試験							
	出版社名				書籍名			
テキスト	みらい				保育士をめざす人の社会的養護 I			
参考文献					適宜授業にて資料配布			
成績評価の方法	授業態度・出席状況・提出物・定期試験							

## 授業計画

科目名	保育者論				担当	岡崎 由美子																		
実務経験	幼稚園教諭として幼児教育に携わった経験を活かし、保育者について考え講義を行う。					授業形態	講義																	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻																	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科																	
		15			教養 <b>必修</b> 選択必修・幼免																			
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>            保育者の意義及び役割、職務内容などに関する知識・理解を知識として受け入れるだけでなく、その事柄を自分の力で考えていく力を養う。</p> <p><b>【授業全体の内容と概要】</b>            保育者の役割、保育者に求められる専門性の向上、職業倫理など、保育者という存在に様々な角度からの検討を加え、実践事例を取り上げながら学びを深める。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b>            保育に求められる保育者の専門性について理解を深め、専門性の向上を図る。</p>																								
<b>授業計画</b>																								
第1回	○オリエンテーション																							
第2回	○ 保育という営み																							
第3回	<div style="border: 2px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">           ※15回の授業終了までに「天の瞳」を 読解する。         </div>																							
第4回									○保育の変遷と歴史・人物															
第5回									※日本の保育の父といわれる「倉橋惣三」について調べる															
第6回									○子ども理解															
第7回									※伊波野保育園へ見学・観察															
第8回									○保育における省察の重要性															
第9回									↓															
第10回																	倫理綱領の解釈							
第11回																	※「天の瞳」を教材として、保育と子どもの育ち、大人たちのかかわりから考える(※保育観)							
第12回									↓															
第13回																	「天の瞳」							
第14回																	↓							
第15回									○試験															
									出版社名				書籍名											
テキスト									建帛社		民秋言編「保育者論」、		灰谷健次郎「天の瞳」											
参考文献	全国社会福祉協議会		改訂1版新 保育士養成講座 第12巻		保育者論																			
	チャイルド		「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育保育要領」																					
成績評価の方法	試験、出席状況、提出物等																							

授業計画

科目名	保育の心理学				担当	平野 美緒		
実務経験	臨床心理士、公認心理師としての専門性と現場経験を活かし、講義を行う。					授業形態	講義	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
		15			教養・ <b>必修</b> ・選択必修・幼免			
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>            保育実践に関わる心理学の基礎的知識を習得し、子どもの発達と学習過程について理解する。</p> <p><b>【授業全体の内容と概要】</b>            子どもの心身の発達や学習の過程についての心理学的知識を学び、発達を捉える視点や各発達過程の特性を踏まえた保育について理解する。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b>            1. 保育実践に関わる心理学の基礎的知識を学び、発達を捉える視点について理解する。            2. 子どもの発達過程について、運動、言語、認知、社会性などの側面から理解し、発達に即した支援の基本を理解する。            3. 子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。</p>								
<b>授業計画</b>								
第1回	オリエンテーション・子どもの発達を理解することの意義							
第2回	発達理論・発達観							
第3回	発達の道筋と初期環境の役割							
第4回	発達過程① 身体・運動							
第5回	発達過程② 認知							
第6回	発達過程③ 言語							
第7回	発達過程④ 感情							
第8回	発達過程⑤ 性格							
第9回	発達過程⑥ 社会性							
第10回	子どもの学びと保育① 愛着							
第11回	子どもの学びと保育② 遊びと学び							
第12回	子どもの学びと保育③ 知能と学習							
第13回	子どもの学びと保育④ 動機づけ							
第14回	子どもの発達における今日的課題							
第15回	試験							
	出版社名				書籍名			
テキスト	建帛社				シードブック保育の心理学 I・II			
参考文献								
単位認定方法	出席状況、授業態度、提出物、試験							

授業計画

科目名	子どもの食と栄養				担当	藤原真由美		
実務経験	保育所で食事提供してきた経験を活かして授業を行う					授業形態	演習	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
		15			教養・ <b>必修</b> ・選択必修・幼免			
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>様々な角度から子どもの「食」と「健康」について考え、理解する。</p> <p>【授業全体の内容と概要】</p> <p>到達目標の内容について概説するとともに、発表、調理実習等を通して理解を深める。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>健康な生活の基本としての食生活に意義を理解できる。こどもの発育・発達と食生活について理解できる。</p>								
授業計画								
第1回	子どもの健康と食生活の意義							
第2回	子どもの発育・発達と食生活							
第3回	栄養に関する基本的知識				栄養素			
第4回	栄養に関する基本的知識				献立作成・調理の基本			
第5回	こどもの発育・発達と食生活				妊娠期			
第6回	こどもの発育・発達と食生活				乳児期の授乳・離乳期			
第7回	こどもの発育・発達と食生活				離乳食調理実習			
第8回	こどもの発育・発達と食生活				幼児期			
第9回	こどもの発育・発達と食生活				学童期～高齢期			
第10回	食育の基本と内容				目的			
第11回	食育の基本と内容				幼児食調理実習			
第12回	食育の基本と内容				おやつ調理実習			
第13回	食育の基本と内容				作品作り			
第14回	家庭や児童福祉施設における食事と栄養							
第15回	特別な配慮を要するこどもの食と栄養							
	出版社名				書 籍 名			
テキスト	萌文書林				子どもの食と栄養			
参考文献								
成績の評価の方法	授業参加への積極性・出席状況・定期試験・朝食摂取							

授業計画

科目名	保育の計画と評価				担当	小山優子		
実務経験						授業形態	講義	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
		15			教養 <b>必修</b> ・ 選択必修 ・ 幼免			
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          保育の実践上、必ず理解しておかなければならない、保育の全体計画である教育課程や全体的な計画の編成意義とその内容を知り、それに基づいて指導計画におおしていく視点を身につける。指導計画については、年間計画・期間計画・月案などの長期的な指導計画や、週案・日案などの短期的な指導計画などの種類を理解した上で、保育実習などにおいて学生が立案する部分指導案や日案の書き方を知り、どのように書けばよいかを自分なりに分かることが授業のねらいである。また、計画、実践、評価の過程を通して、カリキュラム・マネジメントの方法を理解することを目的とする。</p>								
<p><b>【授業全体の内容と概要】</b>          保育所・幼稚園・認定こども園における教育課程や全体的な計画、指導計画について理解し、計画と評価について学ぶ。保育のカリキュラムの基本となる教育課程・全体的な計画と指導計画の関係性を理解した上で、指導計画の立案の意義や書き方について学ぶ。特に、指導計画については、短期的な部分指導案や日案、週案、月案についての書き方やその意義を具体的に理解し、実習で作成する部分指導案や日案などの指導計画を具体的にイメージできるようにする。また、指導計画の立案と記録の取り方、子どもの評価や保育者自身の自己評価の方法について学び、保育実践の質向上のプロセスを学ぶ。</p>								
<p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b>          (1) 全体的な計画・教育課程の意義及び編成方法、指導計画に関する理解を深め、保育所保育指針や幼保連携型認定こども園教育・保育要領などにおける保育の計画と評価について説明できる。(2) 保育所・幼稚園・認定こども園における教育課程・全体的な計画の具体的展開を知り、授業開発や保育の展開を想定した指導計画の作成の視点を身につける。</p>								
<b>授業計画</b>								
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 全体的な計画・教育課程とは何か</li> <li>2 全体的な計画・教育課程の編成の意義</li> <li>3 教育目的・教育目標と教育課程・全体的な計画の編成</li> <li>4 教育方法と教育課程・全体的な計画の編成</li> <li>5 幼稚園・保育所・認定こども園における教育課程・全体的な計画の編成方法</li> <li>6 指導計画の作成の意義</li> <li>7 指導計画の作成方法</li> <li>8 保育所・幼稚園・認定こども園における長期的な指導計画(年間計画・期間計画・月案)</li> <li>9 保育所・幼稚園・認定こども園における短期的な指導計画(週案・日案・部分指導案)</li> <li>10 保育所・認定こども園における3歳未満児の指導計画(月案・週案・個別指導計画の書き方)</li> <li>11 実習中に作成する指導計画(部分指導案)の書き方①</li> <li>12 実習中に作成する指導計画(部分指導案)の書き方②</li> <li>13 実習中に作成する指導計画(日案)の書き方</li> <li>14 実習日誌・保育日誌・実践記録の書き方、保育記録の運用</li> <li>15 全体的な計画・教育課程と指導計画の評価、カリキュラム・マネジメント</li> </ol>								
	出版社名				書籍名			
テキスト	フレーバル館		フレーバル館		「保育所保育指針解説」 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」			
参考文献	授業で適宜、紹介する。必要な資料は授業で配布する。							
単位認定方法	レポート課題、科目試験の結果により判定し評価する。							

## 授業計画

科目名	保育内容総論				担当	岡崎 由美子	
実務経験	幼稚園教諭としての経験を生かして演習を行う。					授業形態	演習
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
		15			教養 <b>必修</b> ・ 選択必修 ・ 幼免		
【授業の目的・ねらい】							
保育を総合的に理解し、その考え方や指導方法について述べるができる。							
【授業全体の内容と概要】							
保育者として保育を構想する力を身に付ける。保育内容を総論的に捉える視点を身に付け、保育の基本及び内容の考え方や指導法について理解する。							
【授業終了時の達成課題(到達目標)】							
発達に応じた保育内容とその展開や指導方法について理解を深めることができる。							
授業計画							
第1回	オリエンテーション						
第2回	デイリープログラムから保育の一日を理解						
第3回	※幼稚園教育要領、保育所保育指針を参照						
第4回	幼稚園教育要領、保育所保育指針が示す保育内容を理解						
第5回	↓						
第6回	保育内容の理解						
第7回	↓						
第8回	子どもの発達と保育内容 保育の内容とその展開			文部科学省：「幼児理解に基づいた評価」参照 ※事例をとおして考え理解していく			
第9回	※教材研究をする。						
第10回	↓						
第11回							
第12回	保育の計画と援助			その時期、行事としての教材等を研究教材として演習を取り入れ、その工程の楽しさや面白さを体験・経験する。			
第13回							
第14回	現代の保育の課題について						
第15回	試験・レポート						
	出版社名			書籍名			
テキスト	青踏社			生活事例から始める—保育内容—総論 神蔵幸子、宮川萬寿美(編著) 2019年			
参考文献	大学図書出版			「保育所保育指針解説」「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育保育要領」			
成績評価の方法	出席状況、授業態度、試験、提出物						

授業計画

科目名	造形表現 I				担当	廣江 潮美	
実務経験	美術の教員として指導した経験を活かし、演習を行う					授業形態	演習
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
		15			教養 (必修) ・ 選択必修 ・ 幼免		
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          幼児の造形教育において必要な基本的な知識、技術を体験的に理解、習得する。</p> <p><b>【授業全体の内容と概要】</b>          1. 授業は、「演習」の形式ですすめる。          2. 材料経験、造形表現体験が中心となるため、授業前後における材料、用具の準備、片付け、服装等の用意が必要となる。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b>          1. 幼児の造形表現を豊かにするために、多様な材料体験を通して造形活動の知識や技術を理解、習得する。          2. 保育の内容「表現」を理解し、造形の基礎的な知識、技術を理解、習得する。          3. 作品や画像・制作の資料・感想等を各自スケッチブックにまとめ、振り返りや次の制作への参考とする。</p>							
<b>授業計画</b>							
第1回	【オリエンテーション】 造形教育の目的と内容、実技研修の意義と構え 『明度のグラデーション、パズル』(p.35)						
第2回	『色相環をつくる』(p.36) 『虹をつくる』(p.36)						
第3回	『モダンテクニック』① 「フロッタージュ」(p.20) 「スクラッチ」(p.136)						
第4回	『モダンテクニック』② 「デカルコマニー」(p.133) 「マーブリング」(p.136)						
第5回	『モダンテクニック』③ 「スタンピング」(p.42, p.135)						
第6回	『モダンテクニック』④ 「ステンシル、ローラー遊び」(p.44, p.132)						
第7回	『生活素材でつくる』(pp.55-56)						
第8回	『粘土で遊ぶ』(p.39, p.130)						
第9回	『自然素材でつくる』(pp.57-58)						
第10回	『コラグラフ版画』(p.43, p.137) 制作①						
第11回	『コラグラフ版画』(p.43, p.137) 制作②						
第12回	『新聞紙でつくる』(pp.51-52)						
第13回	『紙でつくる』(pp.45-46) 制作①						
第14回	『紙でつくる』(pp.45-46) 制作②						
第15回	作品発表・鑑賞、まとめ 幼児造形教育の果たす役割について						
	出版社名		書籍名				
テキスト	萌文書林		『保育をひらく造形表現』				
参考文献							
成績評価の方法	授業態度・出席状況・提出物(作品、感想等を記録・整理したスケッチブック)						

## 授業計画

科目名	リズム表現 I				担当	岡崎 由美子		
実務経験	幼児教育に携わった経験を活かし、実践事例に基づいた演習を行う					授業形態	演習	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
			15		教養・ <b>必修</b> ・選択必修・幼免			
<p>【授業の目的・ねらい】                      リトミックをとおして、保育実践の中で必要な演奏技術や表現活動を身につけ、実践へとつなげていく。</p> <p>【授業全体の内容と概要】                      保育現場で扱う曲や歌唱、楽器を使ったアンサンブルを行うための指導方法を考えたりリズムを体全体で身近な素材を活かして活動を考えたりしながら演奏する楽しさを感じる。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】                      音楽的知識を自分の体を使って感じとり、理解しながらそれらを実践的に展開していく。</p>								
授業計画								
第1回	オリエンテーション							
第2回	○保育の中の音楽表現とは							
第3回	子どもの遊びと音楽							
第4回	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">                     ♪子どもの歌に自分で考えた伴奏(左手)を付け、演奏。                 </div>							
第5回								
第6回	<div style="border: 1px dotted black; padding: 5px;">                     ○子どもの音楽表現を共有していくための基礎                      (リトミックを柱として授業をすすめていく)                 </div>							
第7回								
第8回	・季節の子ども の歌							
第9回	・ソルフェージュ							
第10回	・聴音							
第11回	・楽器の扱い 方や演奏、表現する楽しさを感じる。							
第12回	※リズムの流れを楽譜に落とし、身体表現の略図を書き楽譜を完成する							
第13回								
第14回	・「シンコペー							
第15回	試 験							
テキスト	国立音楽大学付属幼稚園編	幼児のためのリトミック						
参考文献	教育芸術社	おんがくのしくみ歌って動いてつくってわかる音楽理論						
	全音楽出版社:ダルクローズによるリトミック指導1、2、3							
成績評価の方法	授業態度、提出物、実技等							

## 授業計画

科目名	乳児保育Ⅱ				担当	岩田 優子		
実務経験	乳児保育に携わった経験を活かし、援助やかかわり方の実際を伝える。					授業形態	演習	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
		15			教養・ <u>必修</u> ・選択必修・幼免			
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>乳児保育における養護と教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもたちの生活や遊び、保育の方法や環境について具体的に理解していく。</p> <p>【授業全体の内容と概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「乳児保育Ⅰ」で学んだ発育・発達の特徴を理解した上で、実際にどう援助していくのかを学ぶ。</li> <li>・乳児保育における計画の作成について具体的に理解する。</li> </ul> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>乳児の発育・発達を踏まえた保育者のかかわりや計画、環境構成を実践につなげるイメージをもつことができる。</p>								
授業計画								
第1回	6か月以上1歳未満の子どもたちの育ちと保育内容1							
第2回	6か月以上1歳未満の子どもたちの育ちと保育内容2							
第3回	1歳以上2歳未満の子どもたちの育ちと保育内容 2歳～3歳の子どもたちの育ちと保育内容							
第4回								
第5回								
第6回	○乳児保育における指導計画    ○観察・記録及び自己評価							
第7回	子どもたちの生活と遊びが豊かになる保育環境							
第8回	○集団での生活における配慮    ○環境の変化や移行に対する配慮							
第9回	沐浴体験    ※保育実習により実施時期の変更あり							
第10回								
第11回	実践:乳児の保育環境を考えよう 手作りおもちゃ作製							
第12回								
第13回								
第14回								
第15回	試験							
	出版社名				書籍名			
テキスト	ミネルヴェ書房				乳児保育演習ブック[第2版]			
参考文献								
成績評価の方法	出席状況、授業態度、提出物、試験							

授業計画

科目名	保育実習指導 I				担当	佐々木明美	
実務経験	保育現場で実習指導に携わった経験を活かし、細やかな指導をする。					授業形態	演習
単位数	4				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
	15	15			教養・ <b>必修</b> ・選択必修・幼免		
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習 I の意義・目的・内容を理解し、自らの実習課題を明確にする。</li> <li>・保育実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。</li> </ul> <p><b>【授業全体の内容と概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習を行う上での知識・技術の習得を通し、実習の観点を明確にする。</li> <li>・記録、日誌、指導計画の実際を学ぶ。 ・事後指導を通して実習の総括と自己評価を行う。</li> </ul> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <p>自己評価を通して、保育士を目指すための課題を明確にし、今後の学習と自己研鑽に努める意識をもつ。</p>							
<b>授業計画</b>							
第1回	保育実習とは(意義・目的・概要・心構え)				第16回	実習事後指導①(振り返り、自己評価)	
第2回	実習で何を学ぶか				第17回	実習事後指導②(報告会に向けて)	
第3回	観察・体験学習の視点				第18回	報告会	
第4回	観察・体験学習①				第19回	施設実習とは(意義・目的・概要・心構え)	
第5回	観察・体験学習②				第20回	施設実習への準備	
第6回	観察・体験学習③				第21回	実習施設の事前学習	
第7回	観察・体験学習④				第22回	事前訪問7について	
第8回	観察・体験学習の振り返り				第23回	実習目標作成	
第9回	事前訪問7について				第24回	実習の記録(日誌)について ※保育所実習日誌の改善点を踏まえて	
第10回	実習目標作成				第25回	実習の記録(日誌)の書き方演習 ※記録の対象児童は18歳まで	
第11回	実習の記録(日誌)について				第26回	実習事前指導(確認事項、お礼状他)	
第12回	実習の記録(日誌)の書き方演習				第27回	実習事後指導①(振り返り、自己評価)	
第13回	指導案について(部分実習に向けて)				第28回	実習事後指導②(報告会に向けて)	
第14回	指導案作成演習				第29回	報告会	
第15回	実習事前指導(確認事項、お礼状他)				第30回	保育実習 I 総括(保育士を目指すには)	
	出版社名			書籍名			
テキスト	ナツメ社 みらい			大元千種編 実習の日誌と指導案 喜多一憲編 福祉施設実習ハンドブック 適宜授業にて資料配布			
参考文献	フレーベル館			保育所保育指針解説			
成績評価の方法	出席状況・授業態度・提出物等						

授業計画

科目名	音楽基礎Ⅱ				担当	三島 祐司		
実務経験	音楽の専門知識・技能をもって、学生に演習を行う					授業形態	演習	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
		15			教養・ <b>必修</b> ・選択必修・幼免			

【授業の目的・ねらい】

保育者・教育者として音楽を通して子どもの豊かな心を育てることができるよう、保育現場で必要とされる基礎的な音楽の知識・技能を習得する。

【授業全体の内容と概要】

保育現場で必要な音楽の技能習得を目指し、習熟度に応じた個人レッスンをを行う。

表現の幅を広げるための音楽理論を学ぶ。

【授業終了時の達成課題(到達目標)】

保育現場で必要なピアノ技能を習得し、弾き歌い及びコード弾きができる。

音楽表現に、身に付けた音楽知識を生かしている。

授業計画

	実技	理論
第1回	バイエル・ハノン	コードネーム基礎事項
第2回	指の独立	コードプリント
第3回	バイエル・ハノン	コードプリント
第4回	バイエル・ハノン	コードネーム基礎事項2
第5回	バイエル・ハノン バイエル試験曲提示	コード弾き解説
第6回	バイエル	コード付け 非和声音
第7回	バイエル試験開始(レッスン形式)	「きらきら星」解説 コードから作曲
第8回	「きらきら星」両手演奏	変奏曲解説
第9回	弾き語り試験候補曲提示	コード進行 「きらきら星変奏曲」作曲
第10回	弾き語り曲	カノン進行 「きらきら星変奏曲」作曲
第11回	弾き語り試験開始(レッスン形式)	ピアノ伴奏作成法 「きらきら星変奏曲」作曲
第12回	実技発表会演奏曲	コード進行アレンジ例 「きらきら星変奏曲」作曲
第13回	実技発表会演奏曲	「きらきら星変奏曲」作曲仕上げ
第14回	実技発表会演奏曲	音楽理論まとめ
第15回	実技発表会(「きらきら星変奏曲」をリレー演奏・「弾き語り」or「ピアノ曲」の自由曲)	

	出版社名	書籍名
テキスト	全音楽譜出版社	「標準バイエルピアノ教則本」「全訳ハノン教本」
成績の評価の方法	日頃の授業状況、提出プリント、筆記試験、実技試験を総合して評価します。	

## 授業計画

科目名	就職支援				担当	持田 陽子	
実務経験	ジョブカード作成アドバイザーとして学生に指導を行う					授業形態	演習
単位数	6				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
	7	8	15	15	(教養) 必修・選択必修・幼免		
<b>【授業の目的・ねらい】</b>							
社会人としての基礎知識を学び、就労した際に必要な技術を学習する							
<b>【授業全体の内容と概要】</b>							
自己理解を深め、将来のあり方生き方を主体的に考えて具体的な取組みができるようになることをめざし、2年間を通して学習する。校内での授業は、講義演習形式を用いて実施する。また、主体的に行動できるようになるために学外においても活動を実施する。							
<b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b>							
社会人としての基礎知識を学び、就労した際に必要な知識や技術を習得する							
<b>授業計画</b>							
第1回	ガイダンス(授業のねらい・内容と進め方等について)				第16回	1年次振り返り	
第2回	自己理解について				第17回	ジョブカード作成	
第3回	自分のめざす社会人像について				第18回	個別面談①進路希望調査	
第4回	職業理解(保育士の仕事の内容と職場環境について)				第19回	個別面談②進路希望調査	
第5回	自分の目指す保育士像と達成への具体的な取組みについて				第20回	福祉人材センターへの登録	
第6回	個別面談①(進路希望調査)				第21回	就職先についての情報収集①	
第7回	ジョブカード作製				第22回	就職先についての情報収集②	
第8回	求人票の見方、検索方法				第23回	就職を見据えた活動①	
第9回	履歴書の書き方				第24回	就職を見据えた活動②	
第10回	電話のかけ方、話し方				第25回	就職を見据えた活動③	
第11回	礼状の書き方				第26回	就職を見据えた活動④	
第12回	面接マナーと自己PR				第27回	個別面談③進捗状況調査	
第13回	採用試験対策				第28回	就職を見据えた活動⑤	
第14回	就職活動に向けた調査①				第29回	就職を見据えた活動⑥	
第15回	就職活動に向けた調査②				第30回	まとめ	
テキスト	CORE 2024.4~2027.3						
参考文献	適宜資料配布						
成績評価の方法	出欠状況・授業態度・学外活動・提出物等						

授業計画

科目名	子ども家庭支援論				担当	持田 陽子・平野 美緒		
実務経験	福祉及び教育現場での実務経験を活かし講義演習を実施する。 臨床心理士、公認心理師としての専門性と現場経験を活かし、講義を行う。					授業形態	講義	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
				15	教養・ <b>必修</b> ・選択必修・幼免			
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 子ども家庭支援の意義を理解し、保育士の専門性を活かした支援の特徴や問題解決の実際を知る。加えて、子育て家庭に対する支援体制を理解し、多様なニーズに応じた支援の展開と関係機関との連携について理解する。</p> <p><b>【授業全体の内容と概要】</b> 子育て家庭に対する支援の意義と目的、様々な子育て家庭のニーズに応じた支援の実施体制、子育て家庭に対する支援の方法等について学習する。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b> 1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。</p>								
授業計画								
第1回	子ども家庭支援の意義と役割 (持田)				(1) 子ども家庭支援の意義と必要性			
第2回					(2) 子ども家庭支援の目的と機能			
第3回					(3) 家庭の状況に応じた支援			
第4回	子育て家庭に対する支援の体制				(1) 子育て家庭の福祉を図るための社会資源			
第5回					(2) 育て支援施策・次世代育成支援施策の推進			
第6回	多様な支援の展開と関係機関との連携				(1) 子ども家庭支援の内容と対象			
第7回					(2) 保育所等を利用する子どもの家庭への支援			
第8回					(3) 地域の子育て家庭への支援			
第9回					(4) 要保護児童等およびその家庭に対する支援			
第10回					(5) 子どもの家庭支援に関する現状と課題			
第11回	保育士による子ども家庭支援の意義と基本 (平野)				(1) 保育士の専門性を活かした子ども家庭支援とその			
第12回					(2) 子どもの育ちの喜びの共有			
第13回					(3) 保護者の養育力向上に資する支援			
第14回					(4) 保育士に求められる基本的態度			
第15回	試験							
	出版社名				書 籍 名			
テキスト	テキストなし 適宜資料を配布							
参考文献								
単位認定方法	授業態度、出席状況、提出物、定期試験							

授業計画

科目名	子どもの育ちと文化				担当	岸まゆみ			
実務経験						授業形態	演習		
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻		
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科		
				15	教養 <b>必修</b> ・ 選択必修 ・ 幼免				
<p>【授業の目的・ねらい】 より実践的な技術の向上を目的とし、基本を抑えた上での表現の幅を広げていく 子どもたちが創り出す遊びについて話し合い子どもの文化 について考えていく</p> <p>【授業全体の内容と概要】 保育の中の文化活動を体験的に学び、技術として身につける グループ活動を通して協調性や協同性を養う。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 保育の内容を理解し言語表現活動を体験的に学ぶ 子どもの遊びを豊かにする展開方法を学ぶ 具体的な遊びの工夫(伝承遊び・創作遊び)、技術(絵本の読み聞かせ・芝居を演じる・素話等)を身につける 自分の得意とする保育技術を見つけ、更なる向上心をもつ。</p>									
授業計画									
第1回	オリエンテーション								
第2回	子どもの文化とは何か								
第3回	児童文化財と保育								
第4回	伝統行事と伝承遊び								
第5回	実践演習①								
第6回	実践演習②								
第7回	実践演習③								
第8回	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>※表現していくことの 楽しさを感じ取りなが らいろいろな人と関 わって一つの作品づく りを体験する。</p> <p>※考え・工夫・協働作 業を行うことを基本と して授業を進めていく。</p> </div>								
第9回									
第10回									
第11回									
第12回									
第13回									
第14回									
第15回								評価	発表
								出版社名	書籍名
テキスト								なし	
参考文献								ミネルヴァ書房	子どもの文化 演習ブック
成績評価の方法								出席状況・授業態度(積極性)・提出物	

授業計画

科目名	子どもの健康と安全				担当	舟木 賢治		
実務経験	医学部や看護学校における発生学, 解剖・生理学の講義及び実習指導の経験を活かし、保育における保健的対応について演習を行う。					授業形態	演習	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
				15	教養・ <b>必修</b> ・選択必修・幼免			
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境とその整備、必要な援助について理解し、説明できるようになる。</p> <p>2. 保育における保健的対応の基本的な考え方を理解し、子どもの発達や状況を考慮した上で、体調不良等に対して具体的かつ適切に対応できるようにする。</p> <p>【授業全体の内容と概要】</p> <p>関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、講義をベースに演習を組み入れながら学習の理解を深める。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>1. 子どもにとって望ましい保育環境を考え、保育現場の衛生管理や安全対策について説明できる。</p> <p>2. 子どもが傷病を負った場合に、適切に対応することができる。</p> <p>3. 子どもの健康及び安全の管理に関わる組織的な連携について説明できる。</p>								
授業計画								
第1回	保健的観点を踏まえた保育環境および援助とは							
第2回	保育における健康安全管理の実際				(1) 保育現場での衛生管理			
第3回	策				(2) 事故防止と安全対策及び防災対			
第4回					(3) 事故防止:子どもの視野体験〔演習〕			
第5回	子どもの体調不良などへの対応				(1) 子どもの主な体調不良への対応			
第6回					(2) 応急処置			
第7回					(3) 救急処置と救急蘇生法〔演習〕			
第8回	感染症の予防と対策				(1) 感染症の集団発生の予防			
第9回					(2) 感染症対策			
第10回	保育所における保健的対応				(1) 3歳未満児への対応			
第11回					(2) 個別的な配慮を要する子どもへの対応			
第12回					(3) 障害のある子どもへの対応			
第13回	健康、安全への取組み				(1) 職員の連携と組織的取組み			
第14回					(2) 子どもの健康づくりへの取組み			
第15回	試験							
	出版社名		書籍名					
テキスト	総合医学社		「保育者のための わかりやすい 子どもの保健」監修 飯島一誠, 編集 稲垣由子他					
参考文献			適時, 資料を配布					
成績評価の方法	出席状況(10%), 試験(90%)を総合して評価する。							

授業計画

科目名	社会的養護Ⅱ				担当	持田 陽子		
実務経験	福祉および教育現場での実務経験を活かし講義演習を実施する					授業形態	演習	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
				15	教養・ <b>必修</b> ・選択必修・幼免			
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          子ども理解を踏まえた結果社会的養護の基礎的な内容について理解する          施設養護及び家庭養護の実際について理解する          社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する          社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する          社会的養護における子どもの虐待防止と家庭支援について理解する</p> <p><b>【授業全体の内容と概要】</b>          子どもの最善の利益を考察し、保育者として具体的な子どもに対する養護を学ぶ</p> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b>          子どもの最善の利益を考察した結果、保育者として具体的な子どもに対する養護を理解する</p>								
<b>授業計画</b>								
第1回	社会的養護における子どもの理解							
第2回	家庭養護の生活特性及び実際							
第3回	社会的養護における家庭支援							
第4回	施設養護の生活特性及び実際 乳児院							
第5回	施設養護の生活特性及び実際 障害児施設等							
第6回	社会的養護の内容①日常生活支援							
第7回	社会的養護の内容②心理的支援							
第8回	社会的養護の内容③自立支援							
第9回	アセスメントと個別支援計画の作成							
第10回	記録及び自己評価							
第11回	社会的養護における保育の専門性に関わる知識と技術その実践							
第12回	社会的養護における相談援助の知識と技術その実践							
第13回	今後の社会的養護の課題と展望							
第14回	まとめ							
第15回	試験							
	出版社名				書籍名			
テキスト	みらい				保育士をめざす人の社会的養護Ⅱ			
参考文献					適宜授業にて資料配布			
成績評価の方法	授業態度・出席状況・提出物・定期試験							

授業計画

科目名	子育て支援				担当	持田 陽子・平野 美緒		
実務経験	福祉及び教育現場での実務経験を活かし講義演習を実施する。 臨床心理士、公認心理師としての専門性と現場経験を活かし、講義を行う。					授業形態	演習	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
				15	教養 <b>必修</b> 、選択必修・幼免			
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          子育て支援に関する子ども及び保護者のニーズと社会資源について理解する。その上で、保護者との信頼関係を形成し、保育相談支援が実践できる基本的知識と方法を身につける。</p> <p><b>【授業全体の内容と概要】</b>          保育者が行う子育て支援のあり方や地域の関係諸機関との連携について学習する。また、演習課題等を通して、保育相談支援における保護者との相互理解や職員間の連携について学習する。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b>          1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解する。          2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法および技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。</p>								
<b>授業計画</b>								
第1回	保育士の行う子育て支援の特性(平野)				(1) 子どもの保育とともにを行う保護者の支援			
第2回					(2) 子育て支援の基本的価値・倫理			
第3回					(3) 保護者との相互理解と信頼関係の構築			
第4回	保育士の行う子育て支援の展開				(1) 子ども及び保護者の状況・実態の把握			
第5回					(2) 支援の計画と環境の構成			
第6回					(3) 支援の実践・記録・評価・カンファレンス			
第7回					(4) 職員間の連携・協働			
第8回					(持田) (5) 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働			
第9回	保育士の行う子育て支援とその 実際(内容・方法・技術) (持田)				(1) 保育所等における支援			
第10回					(2) 地域の子育て家庭に対する支援			
第11回					(3) 障害のある子ども及びその家庭に対する支援			
第12回					(4) 特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援			
第13回					(5) 子ども虐待の予防と方法			
第14回					(6) 要保護児童等の家庭に対する支援			
第15回	試験				(7) 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解			
	出版社名				書籍名			
テキスト	テキストなし 適宜資料を配布							
参考文献								
単位認定方法	出席状況、授業態度、提出物、試験							

授業計画

科目名	卒業研究				担当	専任教員		
実務経験	-					授業形態	演習	
単位数	6				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
			15	30	教養・ <b>必修</b> ・選択必修・幼免			
<p>【授業の目的・ねらい】          これまでの学習を総合的に活かし、自ら課題提起をしながら研究を行う。</p> <p>【授業全体の内容と概要】          個人またはグループで研究を進め、適宜検討会を開催する。教員による指導は、適宜個別に行う。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】          以下の到達目標を設定し、保育現場や実社会の問題と各自の問題をつなぐ知的能力の形成を図る。          ①卒業研究として適切なテーマを設定することができる。          ②設定したテーマの情報を収集し、課題に取り組むことができる。</p>								
授業計画								
第1回	オリエンテーション				第16回	前期振り返り		
第2回	前期卒業研究の進め方について				第17回	後期卒業研究の進め方について		
第3回	課題図書研究				第18回	研究計画書作成		
第4回	課題図書研究				第19回	研究計画書作成		
第5回	課題図書研究				第20回	研究計画書作成		
第6回	課題図書研究				第21回	製作研究		
第7回	課題図書研究				第22回	製作研究		
第8回	課題図書研究				第23回	製作研究		
第9回	課題図書研究				第24回	製作研究		
第10回	課題図書研究				第25回	製作研究		
第11回	課題図書研究発表準備				第26回	製作研究		
第12回	課題図書研究発表準備				第27回	製作研究		
第13回	課題図書研究発表準備				第28回	製作研究		
第14回	課題図書研究発表				第29回	中間報告		
第15回	課題図書研究発表				第30回	中間報告		
					第31回	中間報告		
					第32回	製作研究		
					第33回	製作研究		
					第34回	製作研究		
					第35回	製作研究		
					第36回	製作研究		
					第37回	製作研究		
					第38回	製作研究		
					第39回	製作研究		
					第40回	製作研究		
					第41回	製作研究発表準備		
					第42回	製作研究発表準備		
					第43回	製作研究発表準備		
					第44回	製作研究発表		
					第45回	製作研究発表		
	出版社名	書籍名						
テキスト	適宜資料配布							
参考文献								
単位認定方法	出席状況、授業態度、提出物、中間報告、研究発表内容等を総合的に評価							